



# 大好き かたびら

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/katabira>

横浜市立帷子小学校  
学校だよりNo.10 2月号  
平成31年1月31日  
横浜市保土ヶ谷区  
川辺町65-1  
Tel.045-335-5896

## 「ピンクシャツデー」2月27日

副校長 中村 好宏

常日頃より本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、「ピンクシャツデー」という取組をご存知でしょうか。毎年2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」として、その日、ピンク色のシャツを着たり、ピンク色の何かを身に付けたりして、いじめをなくすことをアピールします。

それには、こんな経緯がありました。2007年、カナダのノバスコシア州のあるハイスクールでのことです。ある日、ピンクのシャツを着てきた9年生（日本でいう中学3年生）の男子が、シャツの色をからかわれて、いじめにあい、学校から帰ってしまったそうです。

そしてその日、その話を聞きつけた12年生（高校3年生）の男子2人が、自分たちでピンクのシャツを75着用し、明日みんなでピンクシャツを着て行こう、と友達に呼びかけました。呼びかけはあっという間に広がり、翌日には大多数の生徒がピンクシャツを着たり、シャツがなければピンクの何かを身に付けたりして登校したそうです。当然、いじめをした生徒も反省し、それからはそのハイスクールではいじめがなくなったそうです。

この運動が、カナダ全体、世界各地にも広がり、「ピンクシャツデー」として、定着していきました。



私自身が、知人からこの運動を教えてもらったのが、5年前でした。当時の勤務校でその日にピンクのワイシャツを着て、ピンクのネクタイをしめました。

以来、2月の最終水曜日になると同じような格好をして、話せる機会があれば子どもたちにこのことを伝えてきました。

そして、昨年、教育委員会からもポスター（➤）が届き、街の中でもイベントが多数催され、今まで以上に周知されました。（← 校内でも掲示しました。）

しかし、私自身は、この取組が単なるイベントになってはいけないと思っています。

昨今、いろいろなことがイベントになり、ただ楽しむだけになってしまうことが多いうように思えてなりません。その意味を深く知る、考えることなく盛り上がり、それでおしまい状態。

ピンクのシャツを着ることが目的ではありません。このことをきっかけにして、この日をきっかけにして、いじめをしない、させない、許さないことを自分自身の心の振り返りとしてほしいです。

【余談】 食育として「食品ロスを減らす」ことを含めて、1月下旬に給食週間の取組が行われました。昭和の時代、物がまだ豊富でなかった頃の給食は、コッペパンや脱脂粉乳に鯨肉のおかずでした。どれもおいしかったです。ちゃんと食べられる感謝の心が一番の調味料だと思います。

さて、昨年、恵方巻が大量に売れ残り、廃棄されたことが報道されました。なんとも残念なニュースでした。各販売業者は昨年の反省を生かすそうですが、この食品ロスを激減させる方法があります。

どうすればよいのでしょうか。皆さん、一緒に考えてみませんか。

豊かさに慣れて、あることをすっかり忘れてしまっているようです。